

暑熱対策で夏を乗り切ろう！ —牛編—

牛への暑熱の被害は直接的には熱射病がありますが、食欲不振や繁殖などへの影響は、秋になっても続きます。

牛が快適に過ごせる環境を作り、生産性の低下を防ぎましょう。

【畜舎環境対策】

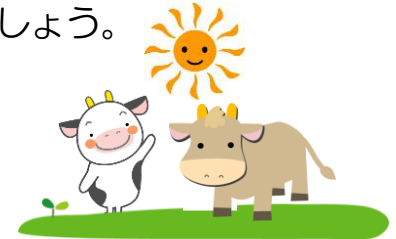
○換気・送風

牛舎周辺を整理整頓し、風通しを良くしましょう。

- ・窓を取り外せば換気量は2倍。
- ・換気扇・カバーのホコリ・クモの巣掃除で、電気代も節減

風速によって牛の体感温度は変化します（右図）。
気温に応じて風速を調整しましょう。

細霧装置は湿度50%を超えると体感温度を上昇させるので、注意してください。



風速 (m)	体感温度
0.5	-4℃前後
1.0	-6℃前後
2.0	-9℃前後

○日光への対策

直射日光を寒冷紗や緑のカーテンなどで遮断、屋根の白色塗布（ペンキ・石灰）や散水で断熱・冷却し、牛舎温度を下げましょう。

放牧場やパドックにも日よけを作るか、日よけがない場合は、放牧する時間帯に注意しましょう。

○夜間の換気

気温の下がる夜こそ、しっかり換気して牛の体温を低下させましょう。

【牛への対策】

○削蹄

肢が痛くて起立を嫌う牛は、お腹の下に熱がたまってますます暑くなります。夏前の削蹄は、暑熱対策に効果的です。

○毛刈り

全身の毛を短く刈ると、体表面から熱が逃げやすくなり扇風機や細霧装置の効果も上がります。まずは高泌乳牛や高齢牛、毛の長い初産牛から実施しましょう。

○飼料給与・給水

飼槽や水槽、ウォーターカップはこまめに清掃してください。搾乳牛は、搾乳直後の1時間以内に1日の飲水量の70%を飲むといわれています。この時間帯に全ての牛が十分水を飲めるような気配りが必要です。

また、夜間の涼しいときに新鮮な飼料を給与すると採食量が高まります。

熱射病になってしまったら・・・

症状として、元気消沈、体温の上昇（40℃以上）、呼吸回数の増加、反芻の停止等がみられます。速やかに獣医師に連絡し、到着までの応急処置として、日陰や風の通るところに移動し、頸部を中心に全身に水を20～30分かかけ続け、牛体を冷やすと効果的です。